

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390300014		
法人名	社会福祉法人千寿福祉会		
事業所名	グループホームみすず		
所在地	岡山県津山市瓜生原326-1		
自己評価作成日	平成22年9月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 高齢者・障害者生活支援センター		
所在地	岡山市北区松尾209-1		
訪問調査日	平成22年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、「なんだかほっとするね みすずをたずねてみませんか?」という理念のもと、利用者様一人一人の身体状況や個性を大切に、住み慣れた環境づくりにも配慮し、安らぎをご提供することを大切に運営しております。開設4年目を迎えた今年度は、①利用者様の心身の変化に対応すること、②職員の介護技術・知識の向上を目標に掲げ各行事、研修など計画・実施しています。特に今年度は利用者様の状態を記録する書式を変更し、より変化を捉えることが出来るようにしました。また、薬剤師の方や津山市職員を講師に招いて研修会を3ヶ月に1度開催したり、外部の研修を積極的に受講し職員の質の向上にも力をいれています。ご家族、職員が連携し、関係医療機関にも協力をお願いして、利用者様を中心としたサービスが提供できるように努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者を中心としたケアが実践されていました。管理者・職員がひとつになり、ひとつひとつの課題に取り組みました。「なんだかほっとするね」の理念を実践されている施設でした。精神的に不安定な方、体調が不安定な方といる利用者に対して、個別に対応され、パソコン・センタードケアを実践されておりました。「ほっとする」の言葉に象徴されるように、暖かさを大切に人間関係作りが、職員教育、施設内の空間作りにかかれている事業所でした。人の温かさに出会える場所でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所内に職員全員が見ることが出来る。利用者様、ご家族、職員、外部の方々々に信頼されるよう日々邁進している。	大きな理念が掲げられて、日々の実践を通して管理者と職員が、理念の共有に努力をされていました。	大きな理念なので、より具体的に小さな目標を掲げて、理念の細分化を図ってみても良いのではないのでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の恒例行事や祭りに参加し、地域の方々々と交流している。秋には子供御輿がGHに来てくれて子供達とのふれあいも楽しんでいただいている。	大きな施設の中にあるので日常的な交流は難しいようですが、母体の行事等を活用した地域交流に努めておられました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域推進会議で利用者様の様子や認知症介護の話をしてアドバイスも頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでの行事報告、予定をお伝えしている。避難訓練では歩行困難など、安全に避難できるようアドバイスいただいた。	参加者が同じ方ばかりになっているとの状況を報告されていましたが、行政方の参加も見られ、参加されている方々との交流がなされていました。その中での意見交換が活発にされ、形ばかりの会議でなく、本当に意味のある推進会議が開催されていました。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が主催する研修会に積極的に参加したり、市職員にGH職員研修の講師を依頼している。	運営推進会議への参加、研修会の講師の受託等、運営に直接的な関わりが出来ていました。このような関わりに対応してくれる、市職員の方の努力にも関心しました。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとして、日中は解放している。利用者様の気持ちに寄り添うケアをするよう努めている。	研修会などを通して、身体拘束をしないケアを勉強し、心の拘束、言葉の拘束にも目を向けたケアが、実践されていました。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」の研修に取り組んでいる。職員間での報連相や声掛けをし利用者様のサービスを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様一人一人を大切に思いながら介護するよう心掛けている。権利擁護制度に関しては研修の機会を今年度中に企画する予定です。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時に説明し同意を得ている。また契約内容に変更があった場合速やかに連絡し、必要があれば再度同意の取り直しもしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には普段の会話の中から聞かせていただき、ご家族には面会時や電話でも話を聞かせていただき、前向きに対応するよう心掛けていている。	遠方の家族のご意見を運営に反映できてない部分があるようですが、前向きな気持ちで努力されていました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開き、介護業務についての意見や要望などを聞き実行している。	総括責任者と 管理者の連携がよく、職員への心配りがいきとどいていました。職員も積極的に意見を出されているようでした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年2回、責任者と職員の面接をして意向を聞き取りしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修、外部研修に積極的に参加し、介護現場で活かせるよう声掛けしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	「グループホームの介護を考える会」主催の集まりに出席しネットワーク作りに努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	暮らしの中で利用者様一人一人の声(思い)を聞きながらご本人が安心して暮らせる環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホームでの暮らしぶりや様子を連絡したり、ご家族のお話をよく聞き安心していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に当サービスを利用することが適切かどうか検討させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる能力を活かして家事等していただいている。具体的にはぞうきんがけ、食事の後片付け、洗濯物畳み、洗濯物干しや季節に合わせて梅ジュース作り、つるし柿などしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との面会時には利用者様の手作り作品や写真を一緒にみていただいたり(説明しながら)して共に利用者様を支えていけるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月、自宅へ一緒に同行して配偶者との関係を支援したり、ご家族、ご親戚等が面会に来られた時には、ホームでの雰囲気を感じてもらっていただけるよう努めている。	事業者側だけが努力をするのではなく、ご家族様にも協力をお願いし、利用者を取り巻く関係を大切にしておられました。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同志が楽しく過ごせるような雰囲気作りを配慮し、職員全員で支援できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方のご家族からの相談を受けたり、利用者様の様子を見に行くなど配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、ご家族が安心して下さるよう傾聴し一人一人の思いを大切にしよう心掛けている。	日々の業務の中、自然に無理をしないケアがされており、思いや意向の把握に努力されていました。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日常的な会話やご家族からの情報は職員間で共有するよう努めている。生活歴をまとめた書式もでき活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化は各記録、チェック表で職員が把握し必要なサービスを提供できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様には随時、ご家族には面会時や電話、手紙などで要望なども確認し介護計画に反映させている。	日々の業務をわかりやすく記述して職員が現状を共有し、介護計画に反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各記録、チェック表、申し送りノート、医療ノートなどの情報を共有する努力をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	健康状態に合わせた代替え食を用意したり、その時々ニーズに対応し取り組んでいきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事(ふれあい祭り、さつき祭りなど)や買い物に出掛けていく楽しみが、暮らしの中で味わえるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様やご家族の希望を聞き、適切な医療が受けられるよう支援している。	往診の先生も来られるようですが、家族にも協力はお願いし受診の対応をさせていただきました。ご家族が無理な場合などは職員が対応しているようです。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師に体調・心理状態について情報提供し適切な受診・看護が受けられるよう支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を書面、口頭で行っている。医療関係者とご家族との話し合いにも参加し利用者様への適切な対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期や重度化が予想される時には、ご家族の意思を十分確認する機会を設けている。かかりつけ医、訪問看護師とも連携しGHでの生活が安心して送れるよう配慮している。	まだ、看取りの経験はないようですが今後ニーズが出れば対応していかれるとのご返事でした。	重度化に向けた勉強会、研修会を重ねられて努力をされていますが、今後も職員の一層のレベルアップと目標達成のためにも、専門性の高い研修に取り組んでいただきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し職員の意識向上につながるよう毎年実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は毎年行っている。風水害など自然災害時の対応は、地域の消防団との協力も仰ぎながら出来るように努めていきたい。	避難訓練も実施されました。発生した時の対応もさることながら、特に火災は出さない、努力もされました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人が人生の先輩として尊敬の念を持ちながら自尊心を傷つけない声掛けや介護できるよう心掛けている。	自己決定を重視し、その人の生きてきた事を大切し、その人を中心にしたケア(パーソン・セントアドケア)が実践されていました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の意見や思いを聞きながらご本人の意向に添うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で利用者様一人一人その時々合った気持ちを優先出来るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装はご本人の意向に添って対応している。外出時には化粧も介助することもある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の嗜好を聞いたり、旬の材料を使った料理を喜んで食べていただけるよう工夫している。片付けが出来る方には手伝っていたている。	食事職員と一緒に会話しながら食べておられました。メニューも家庭的な心づかいが感じられました。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分量はチェック表に記入し好きな飲み物を飲んでいただくよう声掛けしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕2回食後に口腔ケアを行っている。歯のない方では毎食後うがいしている方もいる。義歯も定期的に洗浄している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態を把握してトイレ誘導の時間も決めてオムツに頼らないよう声掛け対応している。	個人の排泄サイクル、身体的レベルに応じた対応を心掛けていました。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し寒天ゼリー、ヨーグルト、食材にもしっかり野菜を取り入れて便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴を実施している。入浴の嫌いな利用者様には楽しく声掛けをしながらタイミングに合わせて順番を入れ替えたりと配慮している。	さまざまな生活の場面で、個々の能力、嗜好も加味して、共同生活の中においても、個人を大切にされたケアが実践されていました。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の状態、生活習慣に応じて休憩時間を設けている。コミュニケーションを取りながら安眠できる対応を心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様一人一人の服薬が分かるよう個人ファイルに薬の説明書を綴じて職員全員が見ることができるようにしている。症状の変化時かかりつけ医に連絡をとり指示を仰ぐ体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お酒を健康状態に支障のない程度に提供している。畑仕事、食事の片付け、洗濯物畳・干し、庭木などの水やりと、利用者様の好きな事をしていただいて、気分転換になるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様の希望に添って散歩、買い物に出掛けていくよう支援している。個別ケアとして好きな場所や食事なども取り入れて利用者様との時間を大切に提供していけるよう支援している。	季節行事も兼ねた外出 ドライブ又は、外食にも積極的に対応し、入所者様の楽しみになっているようでした。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の希望を重視し、ご家族と話し合って現金を持って頂いている方は、買い物、パンの販売、ヤクルト販売時に現金のやりとりをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話したいときはして頂くよう援助している。年賀状やご家族からの荷物の礼状などご本人が楽しんで出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先やトイレ、居間やホールに季節の花を飾って季節感を感じて頂けるよう努力している。利用者様の手作り作品も掲示して安心して暮らせるよう努めている。	季節感を取り入れた作品が飾られ、楽しさと暖かさが感じられました。職員と利用者と一緒に過ごせる空間作りに工夫が見られました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先には椅子を置いて団らんの場を設けている。他棟からも一緒に集まって話しが出来ている。仲の良い方同志は居室で洗濯たみをしながら話しをしている。ソファも利用し居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持ち込んで頂く事を基本として、ご家族にも協力してもらっている。	利用者様が長年使用していたものをなるべく持参してしていただけるように声かけし安心して過ごせる居室づくりに努めておられました。居室の広さもほどよい感じで、安心感が感じられる居室でした。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来る事がご自分で出来るよう見守りや声掛けをし対応するよう支援している。トイレには「便所」と書いて掲示し、利用者様が理解できるように心掛けている。		